



## 方剂解説

# 加味温胆湯の臨床応用

黄 懐龍

# 一、中医の胆について

胆は奇恒の腑で、精汁の貯蔵と分泌を行う、肝葉の間にあり、肝と相互絡属し、表里関係を持っています。

## (一) 胆汁を貯蔵、排泄する：

胆汁は肝臓から分泌、胆に貯蔵、濃縮され、胆管を通して小腸に注入し消化を助ける。もし肝気鬱滞、気鬱化熱、胆汁を熏蒸すれば、胆汁が上逆或外溢では、口苦、嘔吐黄色水或は黄疸などが現れる。

## (二) 決断を主る：

胆は精神意識活動の際、物事を判断し、決断する能力を持っています。極度の驚き、恐ろしいなど精神刺激を和らげ、人の勇敢、臆病に関係します。肝は思慮を主り、胆は決断を主り、両者は互いに協力し合い、人の精神意識、情志活動は正常に行われるわけです。

## (三) 胆胃不和

脾失健運により、内生した痰が胆を阻滞し、胆気が疏泄できないために鬱して胆火を生じて痰を化熱させ、胆気が横逆して、胃気上逆を引き起こしたり、熱痰が擾動する病変である。

## 二、加味温胆湯の組成と効能

### (一) 組成と効能

#### 加味温胆湯

加味温胆湯は清胆化痰の温胆湯（半夏、茯苓、陳皮、竹茹、枳実、甘草）に養心安神の遠志、酸棗仁と清熱涼血益氣の元参、地黄、人参を加えて、清胆和胃、化痰安神、涼血益氣の方剤である。

組 成	半夏、茯苓、陳皮、竹茹、枳実、甘草、遠志、元参、人参、地黄、酸棗仁、生姜、大棗
効 能	清胆和胃、化痰安神、涼血益氣
主 治	胆胃不和、痰熱内擾

# 原 典

温胆湯の出典は宗代（12世紀）の医学書『三因極一病証方論』である。遡って唐代（7世紀）の医学書『備急千金要方』にも載っているが、組成が少し違う。

加味温胆湯は13種類の生薬からなる。『衆方規矩・不寐門』には、「～病後虚煩して睡臥するを得ず。及び胆虚怯し、事に触れて驚きやすく短期悸乏するを治す」とあり、古来より神経が昂ぶって不眠症や神経症などの治療薬として用いられてきた。

## • (二) 処方解説

- 燥湿化痰、降逆和胃の半夏は君薬で、性微寒の竹茹は臣薬として清熱化痰、除煩止嘔、清胆して、佐薬の枳実と陳皮は降気理気化痰して、胆気を疏泄させ、清胆和胃する、茯苓は健脾利湿して、痰の生成を抑え、同時に、生姜、大棗が健脾和胃に働き、痰湿産生を防止する。更に養心安神の遠志、酸棗仁により、脳や自律神経系の興奮を鎮め、精神的な落ち着きを取り戻させる。同時に清熱涼血の元参、地黄と補気生津の人参より、痰火から気陰を保護する。甘草は使薬として諸薬を調和、益脾和中する。

# 加味温胆湯の構成と効能

半夏：燥湿化痰降逆

竹茹：清热化痰止呕

茯苓：利湿健脾宁心

陈皮・枳实：理气化痰

远志：安神化痰

酸枣仁：养心安神益阴

元参 } 清热凉血

地黄 } 养阴

人参：补气生津安神

生姜・大枣：健脾和胃

甘草：调和诸药

化痰安神  
清胆和胃

胆胃不和・痰热内扰

いろいろ、怯えて不安感、悪心、嘔吐、口苦、不眠、驚きやすい、動悸、多痰、胸苦し、眩暈、舌苔稍黄膩、脈弦滑など

痰熱内擾証

### (三) 作用機序の考察

本方は燥湿化痰、清胆和胃、養心安神、益気養陰の効能で、精神的ストレス、自律神経の失調、消化器、呼吸器などの炎症、栄養不良の状態などのさまざまな病態が混在した複雑な状態に用いられる。

- 1) 燥湿化痰：水分代謝よくし、気道などの炎症を抑える。  
…半夏、茯苓、陳皮
- 2) 清胆和胃：清熱理気、降逆和胃、消化器機能正常に調整する。  
…竹茹、枳実、半夏
- 3) 養心安神：脳や自律神経などの興奮を鎮める  
…遠志、酸棗仁
- 4) 益気養陰：痰火より、気陰を守る…元参、地黄、人参

## 三、加味温胆湯の臨床応用

### (一) 主 治

胆胃不和、痰熱内擾により、悪心、嘔吐、怯えて不安感がある、口が苦い、虚煩不眠、驚きやすい、動悸、多痰、胸苦しい、眩暈、てんかん発作、舌苔微黄膩、脈滑弦、やや数

## (二) 応用ポイント

**胆胃不和**：吐き気、嘔吐、口苦、痰が絡む、吃逆などの症状がみられ、舌苔は稍黄膩。

**痰熱擾心**：驚きやすい、気が高ぶって落ち着かない、不安、不眠多夢、いらいら、動悸、痰が絡む、口苦、臆病、てんかん発作、幻聴、幻覚が生じることもある。

**痰湿内壅**：胸脇が脹って痛む、イライラ、怒りっぽい、ため息、食欲不振、腹部膨満感、腹痛、腸鳴、軟便や下痢、舌苔白膩。

### (三) 臨床応用

本方は痰熱内擾、胆胃不和により、悪心、嘔吐、多痰、口苦、不眠、動悸、驚きやすいなどの症候を改善する処方方で、各科領域の疾患に広く応用されている。

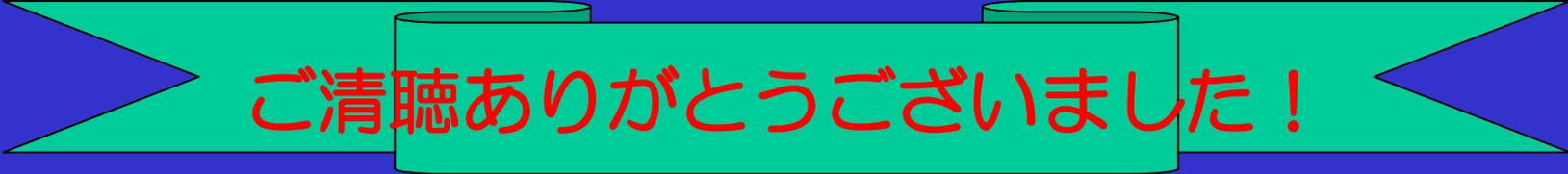
- 呼吸器科：風邪、インフルエンザ、気管支炎、肺炎、神経性咳嗽、感冒後症候群、慢性喘息など。
- 消化器科：急、慢性胃炎、胃食道逆流症、機能性胃腸症、胆嚢炎など
- 精神心療内科：自律神経失調症、不眠症、神経症、多夢症、健忘症、心気症、精神不穩、パニック障害、ノイローゼ、うつ病、てんかん、鬱証など。
- 循環器内科：心臓神経症、虚血性心疾患、高血圧など。
- 産婦人科：更年期障害、つわりなど
- 耳鼻咽喉科：メニエール病など

## • (四) 加減応用：

- ①心内煩熱、心煩不眠、口舌生瘡、のぼせなどに黄連、麦門冬を加え、清熱除煩。
- ②肝鬱脾虚、食欲不振、憂鬱感が強ければ、白朮、柴胡、芍薬を加え、疏肝健脾する。
- ③气滞脾虚、胃痛、腕腹膨満、食欲不振に木香、縮砂、白朮を加え、健脾理气する。
- ④痰熱内結、咳嗽、痰黄粘、胸膈痞満に黄芩、桑白皮、杏仁を加え、清化熱痰、下気止咳する、

## (五) 使用注意点

- ・陽気不足、脾胃虚寒、脘腹冷痛、大便溏瀉の患者には慎重投与すること。



ご清聴ありがとうございました！